

5.22 オンライン演説会
ごぞ2時-はじまります。



日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート

日本共産党議員団
2021.5.18.No.1801.
御相談はお気軽に
TEL/FAXとも **3905-0970**
さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」メガシティ近く)

ワクチン予約などご相談は日本共産党へ

さがらとしこ TEL/FAX 03-3905-0970
事務所
◎事務所がバスの時は、お名前と連絡先をお知らせください。

5月20日付の「北区ニュース」ワクチン接種できる病院
北医療センターなど3カ所から。

赤羽中央総合病院や王子生協病院、大橋病院、
浮間中央病院など、合わせて10カ所になります。

◎予約のやり方は、0120-801-222(コールセンター)
または、インターネットによる予約です。

- ◎引越中など予約に必要な書類が届いていない方、いませんか。
- ◎基礎疾患があり、板橋区など、他区の病院での接種を希望する方など、ご相談ください。区議さがらへ

日本共産党は中止迫る
小池知事と自公都民らは
開催に固執しています。
ここぞも、ちがいがはつきり...



入ホントに... プラシのよう



5/12 東京五輪の中止と知事に迫る そねはじめ都議と党都議団メンバー

- ◎そねはじめ都議と都議団は、いち早く1月26日に五輪を中止し、コロナ対策に集中するよう小池都知事に申し入れ、2月の都議会でも知事に中止を迫りました。
- ◎3回目の緊急事態宣言が延長されたのを受け、5月12日にも知事に申し入れ、この中で、看護師500人、医師200人のオリパラへの派遣が依頼されていることを示し、「これでは、コロナ医療の最前線にいる現場がさらに疲弊すると、そね都議らは副知事に中止するよう強く求めました。



5月15日(土)、赤羽台団地内のエレベーター前で、子どもたちの命を守ろうと。

今すぐ中止の決断をするべきです

東京都教職員組合 執行委員長 木下 雅英さん
子どもたちのオリパラ観戦と中学生のボランティアは直ちに中止するよう都教委に申し入れていきます。
子どもたちは息苦しくても毎日マスクを着けるなど、感染症対策を徹底しながら学校で学び過していきいます。移動を伴う遠征や修学旅行、部活動の大会など子どもたちが楽しみにしていた多くの行事や活動は縮小または中止、延期を強いられています。

子どもたちの命と健康を守るため、学校の教育課程への影響を最小限にするためにも、直前ではなく今すぐ中止を決断することが必要です。
子どもたちの命と健康を守るため、学校の教育課程への影響を最小限にするためにも、直前ではなく今すぐ中止を決断することが必要です。

子どもの感染・熱中症の危険が高まる

東京都医師会会長 尾崎 治夫さん
子どもたちを競技観戦させることは、国内の感染が落ち着かない限り見直しが必要です。感染力の強い変異株がさらに広がれば、子どもたちへの感染の危険も高まりなおさらです。
競技は真夏の時期で、しかも会場が屋外の場合もありです。マスクの着用による熱中症の危険もおとな以上に考えなくてはなりません。
冷静に判断して、やめるべきです。

公共交通機関を利用しての移動は感染リスクを高め、マスクを着用しての観戦は熱中症リスクを高めます。
子どもたちを引率する教職員の負担・責任は、コロナ以前とは比べものになりません。教職員や保護者からも不安の声が上がっています。

誰れにとっても安全な東京へ。ジェンダ平等をすすめます。

● 日本共産党の立党の精神の一つは男女平等。

それから1世紀を経た今、さらに、ジェンダ平等をすすめ封。
(1922年~2022年)

● 区立保育園・認可保育園の増設のため、その都議は、都の有休地活用を提案し、実現させました。
(2013年~7年制) 正議 さがらとして

日本共産党 そのねはじめ都議

● 保育園の送迎に、父親たちが積極的にかわり、私達は共働きをつづけてきた世代です。

(2013年~7年制) 正議 さがらとして



2021 都議選

性暴力根絶 安全な東京へ

街に張られた「痴漢に注意」のポスター。痴漢行為が性暴力だという認識が広まりつつあるにもかかわらず、いまだに被害者に自衛を求めるメッセージがあふれています。日本共産党東京都委員会ジェンダ平等委員会は、インターネットの痴漢被害アンケートで声なき声を拾い上げ、性暴力根絶に力を入れて取り組んでいます。「痴漢ゼロ」誰にとっても安全な東京へ」は、ジェンダ平等社会を進める党の都議選公約の中心の柱の一つです。

痴漢被害調査議会質問でいかす

党都委ジェンダ平等委は、昨年の月発足。性被害者の支援団体や加害者治療の専門家などを招いて学習会を重ねました。「痴漢ゼロ」を政治課題に掲げるにあたり実態を把握しようと、8月から11月にかけてネットアンケートに取り組みました。

一方で半数が「怖くて反応できなかつた」と答えていました。被害を明かしても「隙があるから」と逆に責められたり、セカンドレイプ(二次被害)に遭ったりするケースがありました。

人生に打撃

1435人が回答しました。「繰り返し・連日」「幼少期からわたくなるまでです」と「など継続的な被害を受け

時間がたっても精神的・肉体的苦痛は消えません。「PTSD(心的外傷後ストレス障害)の影響で大学を退学」「電車に乗ろうとすると過呼吸になり仕事を辞めた」「公衆トイレは行きたくない」など、その後の人生に深い打撃

記者会見する(左から)原純子 都議候補、米倉都議、池内さおり責任者ら党都議ジェンダ平等委員メンバー。5月18日、都庁内

共産党都議団 声なき声拾う

を与えています。

アンケートをもとに米倉春奈都議は2月の都議会で、痴漢対策について質問。被害を軽視し被害者を責める社会認識を変えるためにも、行政の積極的な発信や都営地下鉄の痴漢対策、加害者の再犯防止策などを求めました。小池百合子知事は痴漢など性暴力被害の深刻な実態を認め、被害者支援などに取り組むと答弁しました。

「アンケート結果を発表したとき都庁の男性職員が『女性とこんなに大変な目にあっていたとは』と衝撃を受けていました。まず実態を共有し認識を変えないと前に進みません。痴漢ゼロ実現には都庁全体の連携が必要ですが、痴漢については警視庁など各部署バラバラです。全庁的な手



米倉春奈都議

「しんぶん赤旗」 2021.5.15. 4

1ムをつくり、実効性ある具体策を検討してほしい(米倉氏)

質問で前進

初当選後8年間、性暴力根絶や被害者支援の問題に力を入れてきた米倉氏。ジェンダギャップ指数が156カ国中120位と遅れた日本で、経済的・社会的な格差がある上、さまざまな暴力にさらされやすい若年女性の保護・支援充実について質問してきました。

2016年2月、都議会で米倉氏は、助けが必要な若年女性が支援につながっていないことを示し、アウトリーチ(積極的働きかけ)相談活動などを提案。18年度には夜間の見回りや声かけなどを行う民間団体と連携した支援活動が都のモデル事業に。21年度から本格実施されます。

「5年前、施策からこぼれ落ちていた若年女性の問題を取り上げた時は、女性の支援はあるが若い女性の支援といわれても」と担当部さえ明確ではなかった。今年度予算が3倍に増えて一歩前進ですが、実態に比べたら取り組みはまだまだ足りません。都議選で党議席を増やし、ジェンダ平等政策を進める決意を固めています。

日本共産党の躍進を安んじて喜ばせる東京を。オンライン配信で演説会5/22(土) さがら2時~